

# 縁に表札「六畳一間」を掛ける住まい

森 隆 男

## はじめに

表札は一般的には玄関に掛けられているが、岡山県の吉備高原には縁の鴨居に掛けられている住まいがあった。筆者は昭和50年代に当地を訪れた際、このような事例を見たことがある。このたび岡山県高梁市有漢町で、地元の研究者秋葉将氏（1939年生まれ）の案内によって表札の実物と痕跡を残す住まいの調査をすることができた。

縁に表札を掛ける習俗はそこが正式な出入口であることを示しており、玄関が普及する以前の住まいの構造を考えるうえで貴重である。とくに今回は「六畳一間」と書かれた謎の表札を見学することができ、あらためて住まいの出入口の意味を考える機会になった。

## 1 島田保弘家と表札

島田保弘家は高梁市有漢町長代に所在する、屋敷の周囲に広大な田畑を所有する資産家である。近代になって大規模な養蚕業を営んだことが、母屋の背後に長屋形式の養蚕場を設けた写真が残っていることからわかる。母屋は茅葺入

母屋の食い違い六間取りの住まいで、明治10年ごろの建築と考えられている。棟にはオドリと呼ばれる7本の棟押えがのせられている。

図の間取り図は、聞き書きによってかつての土間の様子を復元している。オモテ側に正式な客の対応や儀礼の場であるデイノマ、次の間の機能をもつナカノマ、他の事例ではイタバと呼ばれる板敷のアガリノマが並ぶ。デイノマには仏壇と、伊勢神宮や氏神の神札を納めた神棚が設けられている。またウラ側にはいろりを切ったイロリノマ、広いアダナンドと狭いオクナンドが配置されている。土間のオモテ側はアガリノマと一体的に使用された屋内の作業空間であろう。ここには大竈が据えられている。ウラ側は調理場や竈が設けられた台所である。大黒柱付近には火の神であるロックウサンが祀られている。

さて当家では濡れ縁が内縁に改造されているが、ナカノマの前の鴨居には表札を掛けた2か所の釘穴が残っている。幸い2点の表札が親戚にあたる秋葉氏のもとに残されていた。うち1点の表札は島田氏の祖先の名前が、もう1点に

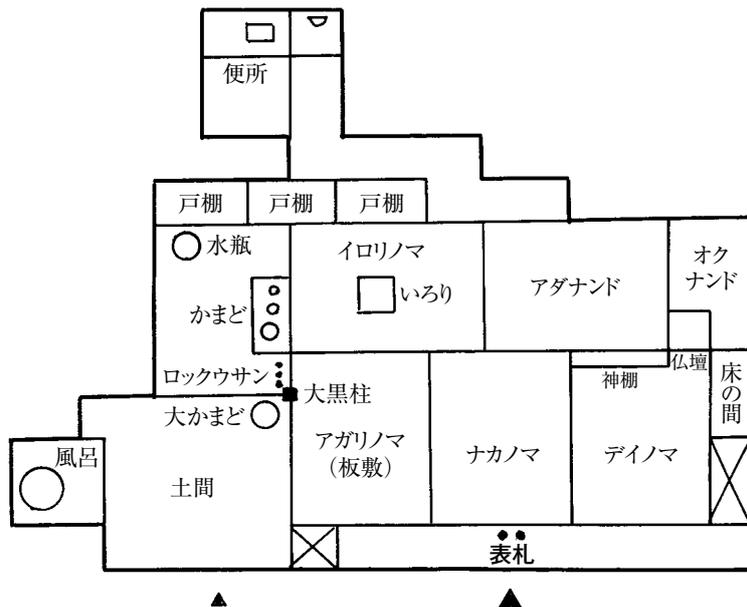


図 島田保弘家間取り図（原図は秋葉将氏作成）



写真1 鴨居に掛けられた表札  
(右「六畳一間」、左「島田某」)

は「六畳一間」と読める文字が記されている。ちなみに前者の木札は長さ14.9cm、幅4.3cm、厚さ1.1cmで、後者は長さ12.3cm、幅10.5cm、厚さ0.7cmである。ともに杉材で、長年風雨に曝されていたため墨書の退色が著しい。

## 2 出入口の使い分け

島田家では、人の出入りは基本的に縁から行われた。当家には大正10年ごろに撮影されたと思われる写真が残っており、老人が縁から出入りする姿が写っている。ここはアガリノマにつながる場所で、当時家族の日常的な出入口であった。アガリノマという呼称もこの部屋の機能を端的に示している。土間への入り口を日常的に使用するの、クミカワと呼ばれる浅い井戸から水を運び込む主婦ぐらいであったという。

表札が掛かっていた場所は、日常的な客の出入口であった。また秋葉氏の夫人は当家の出身で、婚礼の出立の際にナカノマから縁を経て



写真2 大正10年頃の島田家

直接庭に出たことを記憶されている。当家に嫁いだ女性もこの場所から屋内に入ったという。一方、僧侶や神職の出入りと出棺はデイノマの縁が使用された。このように当家では表側の3部屋と土間それぞれに計4か所の出入口があったことになる。

この地域では比較的遅くまで広間型の間取りが残存し、整形四間取りへの変化は当家が建築されたのと同時期の明治初期であったとされている。秋葉氏が昭和50年ごろに調査した同じ地区の大森家では、家族の居室に加えて接客の場であった広間に相当する広い部屋の前の鴨居に表札が掲げられていた。島田家も再建以前は広間型の間取りをもつ住まいであった可能性が高い。表札が掛けられたところは広間に直接出入りする、玄関に相当する場であった。なお部屋に直接出入りする感覚は、やはり玄関をもたない南西諸島の住まいに共通する。

## 3 表札「六畳一間」の意味

「六畳一間」と記された木札について、秋葉氏は客のもてなしが可能な畳敷きの部屋があることを示すと同時に家格を示すものであったと解釈している。集落の旧家である当家にのみ残っている点からも妥当であろう。

武家住宅の式台玄関をあげるまでもなく、客を迎える玄関はその家の格式を表す重要な設備であった。村の旧家である島田家に玄関が見られなかったのは、当地では接客を前提にした家格表示の設備が未発達であったからであろう。このように考えると前出の「六畳一間」と記された木札が、それを補う役割を果たしていたとみていいだろう。

庶民の住まいに接客の設備として玄関が普及していく過程を具体的な事例で検証するとき、島田家に残された「六畳一間」の木札が重要な資料であることは間違いない。

(参考文献)

- ・有漢町文化財保護委員会編『有漢の民俗』  
有漢町教育委員会 1980
- ・土井卓司・佐藤米司『日本の民俗・岡山』  
第一法規出版 1972
- ・鶴藤鹿忠『岡山の民家』 日本文教出版 1965

博物館運営委員 文学部教授